

E-1737

0279

北樺太鑛業株式會社

電 文

三菱大連支店ヨリ愈周徳外五名約一、五〇〇圓請求シ居ル旨通知
アリタ支拂フモノナラ書類領事館ニ依頼急送セヨ
以 上

(分類 E4.2.2.2-2)

電送第 8490 號

昭和 6 年 9 月 10 日 4 時 6 分 發

電報料
北樺太鑛業株式會社
ヨリ

電 信 案

外 務 省

宛 在 暗 第 號

新 居 總 領 事 館 代 理

發 幣 庫 大 臣

件

北樺太鑛業株式會社依頼電報一、五〇〇圓請求シ居ル旨通知アリタ支拂フモノナラ書類領事館ニ依頼急送セヨ

込 達 名 北樺太鑛業株式會社

主 管 歐 米 局 長

主 任 歐 米 課 長

(昭和 6 年 9 月 10 日)

(原議用紙甲)

電 信 課 長

電 信 案

E-1737

0281

北樺太鑛業株式會社

第一五三號

外務省 御中

昭和六年九月十九日

拜啓時下初秋之候益々御清榮奉賀候陳者本年度團體契約改訂ニ關シ
テハ客月十二日第一三三號弊信ヲ以テ御報申上置候處布契約改訂交
渉ハ本月下旬ヨリ開始ノ予定ニテ既ニ當方ヨリ代表ヲ差遣シタルガ
本日更ニ別紙寫ノ通り組合ヘモ提議致置候ニ付御參考迄ニ右寫御送
申上候間御查收被成下度先ハ御送御案内旁御報迄得貴意候 謹言

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



寫

北樺太鑛業株式會社

哈府組合 御中

北樺太鑛業株式會社

會社ハ創業以來未ダ一回ノ配當モ爲サザル一事ヲ以テ收益シ居ラザ
ルハ明ラカニシテ今ヤ會社ハ經營上重大ノ時機ニ當面シ居レリ依テ
本年度契約改訂ハ如何ナル些少ノ負擔増加モ容認シ難シ労働者ノ待
遇改善賃銀値上モ本會社ニ關スル限り會社ノ採算ト相關連シテ考慮
サルヘキナルコト言フ俟タザルガ故ニ會社ハ寧ロ本契約改訂ニ當リ
労働者ノ效果的ニ働キ能率ヲ高メ生産ヲ増進スル様労働條件ノ改訂
及労働者ノ労働ニ對スル責任感ヲ喚起スル等ノ手段ヲ講ズルコトヲ
提議ス弊社ガ斯ル提議ヲ爲スハ會社事態ノ經營困難ニ在ル外日本
ニ於テ弊社事業ガ對露事業經營ノ能否ヲトスル目標トセラレ居ルヲ
以テ是非共弊社事業ノ經營ヲ圓滿ナラシメ延テ日蘇經濟提携ノ實現
ヲ期セントスル切實ナル微意ニ外ナラズ

郵

外務省

歐一普通第一八號

昭和六年九月廿二日

外務大臣男爵幣原喜重郎

在ハバロフスク

總領事代理 小柳雪生殿

北樺太鑛業會社ノ團體契約締結交渉ニ關スル件

本件ニ關シ今般川上北樺太鑛業會社社長ヨリ別紙寫ノ通報アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

6.3

要
一部

(分類E 4.2.2.2-2)

公
信
案

(昭和六年九月十九日附
電
普
第一五
號寫並附屬書寫)

外
務
省

付爲御參考右茲ニ送付ス

本件ニ關シ今般川上北樺太鑛業會社社長

ヨリ別紙寫ノ通報書アリタルニ

件
名

北樺太鑛業會社ノ團體契約
締結交渉ニ關スル件

名

送
綴
帝國ノ利益權利を起
北樺太鑛業會社

受
信
人
名

小柳總領事代理

發
信
人
名

幣原大臣

歐一普通第一八號

昭和

昭和六年九月廿二日

附屬書通

主
管
歐米局長

主
任
第一課

草昭和七年九月廿一日

文書課

文書課發送 昭和六年九月廿二日發送済

淨書

正校(原稿)

淨書

文書課

(原議用紙甲)

22 45

E-1737

0283

第一五三號

昭和六年九月十九日

外務省 御中

拜啓時下初秋之候益々御清榮奉賀候陳者本年度團體契約改訂交渉ハ
本月下旬ヨリ開始ノ豫定ニテ既ニ當方ヨリ代表ヲ差遣シタルガ本日
更ニ別紙寫ノ通り組合ヘモ提議致置候ニ付御參考迄ニ右寫御送申上
候間御查收被成下度先ハ御送御案内旁御報迄得貴意候 謹言

北樺太鑛業株式會社

取締役會長 川上俊彦

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

哈府組合 御中

北樺太鑛業株式會社

會社ハ創業以來未タ一回ノ配當モ爲ササル一事ヲ以テ收益シ居ラサ
ルハ明ラカニシテ今ヤ會社ハ經營上重大ノ時機ニ當面シ居レリ依テ
本年度契約改訂ハ如何ナル些少ノ負擔増加モ容認シ難シ労働者ノ待
遇改善賃銀値上モ本會社ニ關スル限り會社ノ採算ト相關連シテ考慮
サルヘキナルコト言フ俟タザルガ故ニ會社ハ寧ロ本契約改訂ニ當リ
労働者ノ效果的ニ働キ能率ヲ高メ生産ヲ増進スル様労働條件ノ改訂
及労働者ノ労働ニ對スル責任感ヲ喚起スル等ノ手段ヲ講ズルコトヲ
提議ス弊社ガ斯ル提議ヲ爲スハ會社事態ノ經營困難ニ在ル外日本ニ

6.3

外務省

E-1737

0284

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

(分類 E 4.2.2.2-2)

北樺太鑛業株式會社

外務省御中

昭和六年九月二十六日

拜啓在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手数數恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理殿宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

御願

北樺太鑛業株式會社

代表會長

小澤仁之甫



(分類 E 4.2.2.2-2)

電送第 9767 號

第 6 年 9 月 26 日 午後 10 分 發

電信料依頼人拂

電信案

外務省

3.2

平一 第 號

宛 在亞港
新居總領事館事務代理

發 部 系 大 臣

主 管 歐米局長
任 主 任 第一課
件 團體契約ニ關スル件

名 込 額

電信課長

電信案

(起 昭和 六年 九月 二十六日)

(原議用紙甲)

E-1737

0286

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ツクロヒ始末ヲ着クル方策ヲ考慮シオカレ度シ

以

上

17

電 文

「貴電第二號申越ハ從前通り交渉ニ關シ中止決裂調印並ニ條項中採算ニ相當影響アルモノ等ノ重大事項ト思考サルル案件ハ本店ノ承認ヲ求メ細目ニ亘ル件ハ鑛業所トノ打合セ乃至貴下裁量ニ依リ適宜處理セラレ度シ本件今更ノ問題ニ非ズ萬達丸問題ニ關スル鑛業所指圖ニ依リ申越シタリト思フガ全問題ヲ團契ニ關連セシムルハ意見アルニ付第二ノ通り電シオケリ

「左ノ通り鑛業所ヘ電シ置ケリ御參考迄

萬達丸事件急速取戻ノ望アリヤ先方既ニ開封内容ヲ見居ルト思ハレ此上ノ強硬交渉モ益ナシト思考サルルガ如何
本件團契ト關連セシメ交渉開始ヲ見合サスル貴見ハ一應尤ナルガ團契締結回避ノ責任ヲ嫁セラレ事態ヲ利ニ導ク懼アリトモ思ハルニ依リ萬全ノ爲メ哈府組合ノ出様ニ依リテハ兎モ角團契ト切離スコトニ致度ク尙本件ハ結局取戻シ不能ナレバ適當ノ機會ニ体裁ヲ

北樺太鑛業株式會社

ツクロヒ始末ヲ着クル方策ヲ考慮シオカレ度シ

以 上

北樺太鑛業株式會社

電 文

一 貴電第二號申越ハ從前通り交渉ニ關シ中止決裂調印並ニ條項中採算ニ相當影響アルモノ等ノ重大事項ト思考サルル案件ハ本店ノ承認ヲ求メ細目ニ亘ル件ハ鑛業所トノ打合セ乃至貴下裁量ニ依リ適宜處理セラレ度シ本件今更ノ問題ニ非ズ萬達丸問題ニ關スル鑛業所指圖ニ依リ申越シタリト思フガ全問題ヲ團契ニ關連セシムルハ意見アルニ付第二ノ通り電シオケリ

二 左ノ通り鑛業所ヘ電シ置ケリ御參考迄

萬達丸事件急速取戻ノ望アリヤ先方既ニ開封内容ヲ見居ルト思ハレ此上ノ強硬交渉モ益ナシト思考サルルガ如何

本件團契ト關連セシメ交渉開始ヲ見合サスル貴見ハ一應尤ナルガ團契締結回避ノ責任ヲ嫁セラレ事態ヲ利ニ導ク懼アリトモ思ハルニ依リ萬全ノ爲メ哈府組合ノ出様ニ依リテハ兎モ角團契ト切離スコトニ致度ク尙本件ハ結局取戻シ不能ナレバ適當ノ機會ニ体裁ヲ

北樺太鑛業株式會社

萬達丸事件急速取戻ノ望アリヤ先方既ニ開封内容ヲ見居ルト思ハ
レ此上ノ強硬交渉モ益ナジト思考サルガ如何
本件ヲ團契ト關連セシメ交渉開始ヲ見合サスル貴見ハ一應尤ナル
ガ團契締結回避ノ責任ヲ嫁セラレ事態ヲ不利ニ導ク懼アリトモ思
ハルニ依リ萬全ノ爲メ哈府組合ノ出様ニ依リテハ兎モ角團契ト切
離スコトニ致度ク尙本件ハ結局取戻シ不能ナレバ適當ノ機會ニ体
裁ヲツクロヒ始末ヲ着クル方策ヲ考慮シオカレ度シ
小澤ヨリ交渉ノ指圖ハ本店、鑛業所何レニ依ルベキヤトノ申越ニ
對シ回答左ノ通り
貴電第二號申越ハ從前通り交渉ニ關シ中止決裂調印並ニ條項中採
算ニ相當影響アルモノ等ノ重大事項ト思考サル、案件ハ本店ノ承
認ヲ求メ細目ニ亘ル件ハ鑛業所トノ打合セ乃至貴下裁量ニ依リ適
宜處理セラレ度シ本件今更ノ問題ニ非ズ萬達丸問題ニ關スル鑛業
所指圖ニ依リ申越シタリト思フガ全問題ヲ團契ニ關連セシムルハ

電 文

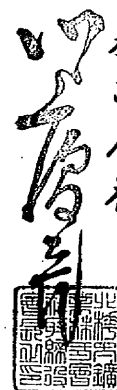
北樺太鑛業株式會社

拜啓薩哈噠亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港新居總領事館事務代理殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜
敷御取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年九月二十六日

北樺太鑛業株式會社

東洋後會長



外 務 省 御 中

御 願



E-1737

0289

北樺太鑛業株式會社

意見アルニ付第二ノ通り電シオケリ

以上

北樺太鑛業株式會社

電 文

一 萬達丸事件急速取戻ノ望アリヤ先方既ニ開封内容ヲ見居ルト思ハ
レ此上ノ強硬交渉モ益ナシト思考サルガ如何
本件ヲ團契ト關連セシメ交渉開始ヲ見合サスル貴見ハ一應尤ナル
ガ團契締結回避ノ責任ヲ嫁セラレ事態ヲ不利ニ導ク懼アリトモ思
ハルニ依リ萬全ノ爲メ哈府組合ノ出様ニ依リテハ兎モ角團契ト切
離スコトニ致度ク尙本件ハ結局取戻シ不能ナレバ適當ノ機會ニ休
裁ヲツクロヒ始末ヲ着タル方策ヲ考慮シオカレ度シ

二 小澤ヨリ交渉ノ指圖ハ本店、鑛業所何レニ依ルベキヤトノ申越ニ
對シ回答左ノ通り

貴電第二號申越ハ從前通り交渉ニ關シ中止決裂調印並ニ條項中採
算ニ相當影響アルモノ等ノ重大事項ト思考サル、案件ハ本店ノ承
認ヲ求メ細目ニ亙ル件ハ鑛業所トノ打合セ乃至貴下裁量ニ依リ適
宜處理セラレ度シ本件今更ノ問題ニ非ズ萬達丸問題ニ關スル鑛業
所指圖ニ依リ申越シタリト思フガ全問題ヲ團契ニ關連セシムルハ

分類 4.2.2.2-2

電送第 10270 號

6年9月30日 9時30分發

電信料
北樺太

電信案

外務省

3.2

(別紙北樺太、鉱業令七電報共、打第手)

本暗 第 號

宛 小樺總領事代理

在 哈府

件 北樺太、鉱業令七電報共、打第手
契約締結交渉一件

發 幣原大臣

綴 北樺太、鉱業令七電報共、打第手
名 同 北樺太、鉱業令七電報共、打第手

主管 礦業局長

主任 礦業課長

起草昭和六年九月廿日

電信課長

(原議用紙甲)

電信案

北樺太礦業株式會社

意見アルニ付第二ノ通り電シオケリ

以上

E-1737

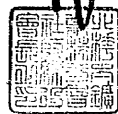
0291

(分類 E4.2.2.2-1) 北樺太鑛業株式會社

外務省 御中

團體代表印

北樺太鑛業株式會社
代表會長



昭和六年九月三十日

打第2

拜啓 在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手数恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理殿宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

御



願



北樺太鑛業株式會社
代表會長
小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手数恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理殿宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

北樺太鑛業株式會社

電文

最後案トシテ村山案致方ナシ但シ交換條件トシテ有利ニ援用セヨ

以上

E-1737

0292

電送第 10848 號

昭和 6 年 10 月 7 日 午後 8 時 10 分 發

(分類 5, 2, 2, 2-2)

電信案

外務省

3.2

別紙北樺太鉱業令に基き其件標本ノ事

本暗 第 號

宛 在 哈 爾 濱
小 樺 太 總 領 事 代 理

件 (團體名の向致ニ因スル北樺太鉱業令)
社 依 頼 事 限

送 込 名 達
北 樺 太 總 領 事 代 理

發 幣 局 大 臣

主 管 歐 米 局 長

主 任 歐 米 局 課 長

昭和 6 年 10 月 7 日

電信課長

(原議用紙甲)ナ

電信案

北 樺 太 礦 業 株 式 會 社

電 文

最後案トシテ村山案致方ナシ但シ交換條件トシテ有利ニ援用セヨ
以 上

E-1737

0293

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

北樺太鑛業株式會社

電 文

十六條組合側新條、十九條、三十六條、五十五條、五十八條ハ鑛業所
トノ打合セニ一任ス
質銀問題ハ先電通り、四等級迄ヲ五等級トシ現行出來高評價ヲ値上
ゲセザル條件ニテ十%迄値上、俱樂部ハ一切ノ費用トシテ四萬留提
供ト規定シ建築ハ團契ニ於テハ飽迄當方ノ責任トセズ現地協定ニ讓
ルコト
其他ハ貴案ニテ異議ナシ右ヲ最後案トシテ物資問題外有利解決ヲ望
ム

以 上

北樺太鑛業株式會社

御 願

拜啓在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ毎度御手数恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理殿宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十月七日

北樺太鑛業株式會社

理事役會長

小澤 仁之甫



外 務 省 御 中

ソ聯邦勞銀制大改革

我利權企業團體交渉ニ影響 (昭和六年十月八日日露通信)

既報ノ如ク北樺太石油、石炭兩利權會社トソヴェート勞働組合トノ本年度團體契約ハ炭坑側ハ去ル九月二十七日ヨリハバロフスクデ、石油側ハ同二十八日ヨリモスクワーデ交渉開始シタガ問題ノ焦點ヲナスモノハ兩利權會社雇傭勞働者ノ勞銀値上ゲ並ニ待遇改善デハ從來ノ例ニ徴シ相當解決迄ニハ長引クモノト豫想サレテキルガ時偶々ソヴェート政府國民經濟最高會議幹部會及ビ聯邦勞働組合中央評議會ハ勞働賃銀制ノ再組織ニ關スル命令ヲ九月二十日付ヲ以テ公布シ其中最モ重要性ヲ有スル工業部門タル金屬、石炭等ニオイテハ十月一日カラ新賃銀制ヲ實施スルニ至ツタガ、之ハ從來ノ勞銀制定ノ根

(赤枠紙)ト

外務省

6.3

(赤枠紙)ト

本原則タル「極端ニ左翼的ナル」賃銀ノ平均化ガ、企業内ノ熟練勞働者乃至ヨリ困難ニシテ危險性アル部署内ノ勞働者ニ薄ク、然ラザルモノニ厚イ結果、前者ノ不滿ヲ醸シ、勞働者ノ企業ニ對スル定着ヲ妨ゲル根本原因ヲナセルニ鑑ミ、熟練勞働ト不熟練勞働ニ困難ヲ勞働ト容易ナ勞働トノ間ニ當然必要ナ等級ヲ設定シ、賃銀システムヲ改造セルモノデ、既ニ今年六月スターリンノ産業新指導方針演說中ニ指摘セルモノヲコニ具体化シ、實現化シタモノトシテ注目サル。今全聯邦金屬工業總聯合「スターリン」ノ改正勞働賃銀中最モ代表的ナモノノ日額ヲ舊賃銀ト比較シテ示セバ左ノ如シ(單位留)

新賃銀

第一級 三・五〇(哥)

舊賃銀

二・五〇一・二・八〇

外務省

6.3

E-1737

0296

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第二級	四・二五	三・〇〇一三・二五
第三級	五・一〇	三・六五一四・一〇
第四級	六・二〇	四・四〇一四・九〇
第五級	七・五〇	五・一〇一五・七〇
第六級	九・〇〇	五・八〇一六・五〇
第七級	一一・五〇	六・五〇一七・二五
第八級	一三・〇〇	六・五〇一七・二五

次ニ炭坑労働者ハ舊賃銀トノ比較表ガ示サレテキナイガ十月一日ヨリ實施ノ坑夫新賃銀システム左ノ如シ。

新賃銀	第一級	一ル一ブル六〇哥	第二級	一ル一ブル七五哥
-----	-----	----------	-----	----------

外務省

(赤枠紙)

6.3

第三級	一ル一ブル九五哥	第四級	二ル一ブル二五哥
第五級	二ル一ブル六〇哥	第六級	三ル一ブル
第七級	三ル一ブル五〇哥	第八級	四ル一ブル一〇哥
第九級	四ル一ブル八〇哥	第十級	五ル一ブル七五哥
第十一級	七ル一ブル		

尙カカルソ聯邦賃銀システムノ大改革ハ我北樺太二大利權會社ノ對露團體契約交渉ニモ何等トカノ影響ヲ見出スモノト豫測サレル。

(赤枠紙)

6.3

外務省

E-1737

0297

北樺太鑛業株式會社

第一六〇號

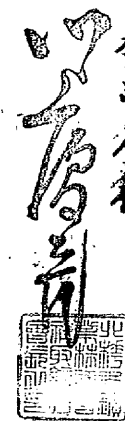
昭和六年十月七日

外務省歐米局 御中

拜啓陳者本年度團體契約改訂ニ付當方代表哈府へ差遣シタル次第ハ九月十九日附弊信第一五二號ヲ以テ御報告申上置候處改訂交渉ハ全月廿七日ヨリ開催現在迄ニ六回ノ商議ヲ重ネ別紙ノ通りノ經過ト相成居候間御參考迄御報申上候ニ付委細右ニテ御了承被成下度右乍遲延御報告迄得貴意候 謹言

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



追而當方提案ハ別紙ノ通りニ有之候間八月十二日附弊信第一三二號添附ノ組合案ト御参照被成下度候 又拜

北樺太鑛業株式會社

團體契約交渉會議經過

一 現在迄ノ協定濟條項

(一) 一條、四條、五條、六條、七條、八條、十二條、十三條、十五條、十六條、十七條、十八條、廿一條、廿二條、廿三條、廿五條、廿六條、廿七條、廿八條、廿九條、卅條、卅一條、卅二條、卅三條、卅四條、卅七條、四十一條、四十二條、四十三條、四十四條、四十五條、四十六條、四十七條、四十八條、四十九條、五十二條、五十七條、六十條、六十一條、六十二條

以上現行通り

二 變更條項

(イ) 九條、備考ニテ削除シ會社案通り第二條ニ追記
(ロ) 十條、(ハ) 項ニ賣子、タイピスト古參ト小頭追加
(ニ) 廿四條、先方提案ノ内料理人本人ニノミ物資配給ヲ承認、當方亞港事務所ニモ本條適用ノ旨明記ス

北樺太鑛業株式會社

- (二) 卅八條、本文現行通り、備考削除ハ當方案ハ現行文章ヲ廢シ
 勞働法ノ法文ヲ引照ノトニ決定ス
 (六) 卅九條、本文未決、備考現行通りナルモ「規定ノ義務日數履
 行前ノ缺勤ニ對シテハ勞働法四十七條ヘ項ヲ適用ス」ト議定
 書ニ規定ス
 (ハ) 四十條、備考三ニ「但シサガレンニ於ケル會社企業ニ二ヶ年
 連續稼働ノ者ニ限ル」ト追加シ議定書ニテ追加一週間ノ休暇
 ハ金錢ニテ代償シ得ルコトヲ約束ス
 (ト) 五十二條、「アガロツドナヤ新坑ニ赤色室ヲ新設スベシ」ト
 記載

附錄第三ニ次ノ通り追加

三五、研磨工	コンビネーション	一ヶ年
三五Aトラクター運轉工	ズツク製被服	一ヶ年
	皮手套	消耗マデ
	冬期、半シユーバ	三季部
	ワイレンキ	二季部

北樺太鑛業株式會社

未決條項

- 一、以外ノ條項ハ折衝中ナルガ内主要ナルモノ左ノ如シ
 (イ) 賃銀問題（第二十條）——組合側提案（多額上）
 (ロ) 俱樂部新築問題（第五十六條）——全 右
 (ハ) 物資問題（附錄第二）——會社側提案
 四、前記主要未決事項ニ關スル當方ノ最後案左ノ通り
 (イ) 賃銀問題ハ四等級迄ヲ五等級賃銀トシ且現行出來高評價ヲ値上
 ゲセザルコトヲ條件トシテ十%以内値上ニ應ズルコト
 (ロ) 俱樂部新築問題ハ一切ノ費用宛ニ四萬留以内ヲ組合ニ提供シ建
 築ハ組合ヲシテナサシムルコト
 (ハ) 物資問題ハ當方提案ヲ主張、可及的有利解決ノコト

以上

北樺太鑛業株式會社

昭和六年度團體契約改訂案

- 第二條 第九條備考二ヲ次ノ文句トシテ本條ノ備考二トス
備考二、左記ノ勞務者ノ勞働條件ハ次ノ法令ヲ以テ規律ス
(イ) 季節的並ニ木材伐採作業 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 以下同ジ
(ロ) 臨時勞働者 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 以下同ジ
(ハ) 建築作業 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 以下同ジ
(ニ) 前掲總テノ者ニ就テ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 以下同ジ
前掲法令ニ規定ナキ勞働條件ハ本團體契約ノ規定ニヨリ規
律ス
第三條 契約調印ノ日ヨリ一ケ年
第七條 第一項ヲ次ノ通り提案スベシ
契約當事者ノ何レモガ契約條件再審ノ要求ヲナサザル時ハ
本契約ノ效力ハ新契約締結マデ又ハ本契約延期ニ關シ特ニ
協定成立シタル期間ダケ延長サル
第二項以下現行通り

北樺太鑛業株式會社

- 第九條 備考二ヲ削除(第二條參照)
第十條 (ハ) 項ニタイピスト及道具番ヲ追加ス
第十一條 第三項トシテ左ノ通り追加ス
作業地到着後六ヶ月以内ニ自己ノ希望ニヨリ退職スル者又ハ
勞働規律違反ニヨル被解雇者ハ雇入ニ際シ會社ヨリ支給サレ
タル旅費並ニ旅行中ノ報酬ヲ會社ニ賠償スルモノトス
第十二條 第三項トシテ次ノ通り追加ス
作業地ニ於ケル試験不合格者ニハ會社ハ其ノ技術ニ相當スル
他ノ勞務ヲ提供ス、但シ技術ニ相當スル勞務ナキカ又ハ會社
ノ提供セル勞務ヲ本人ガ拒絶シタル場合ニハ會社ハ如何ナル
賠償ヲモナサズシテ勞務者ヲ解雇ス
第十四條 末項ノ「二週間分」ヲ「一週間分」(十日分ニテモ可)
ニ改ム
第十九條 「前掲規定ニ基キ勞務者ガ他勞務ニ 一 一 一 一 退職手當ヲ
支給ス」削除
第二十條 (四) 削除

北樺太鑛業株式會社

- 第二十五條 削除
- 第二十七條 支拂ノプレミアヤ制ハ會社之ヲ實施シ組合ニ通告ス
- 第三十二條 一九三〇年四月十日附勞働人民委員會規定ニヨル
- 第三十三條 全 右
- 第三十五條 全 右
- 第三十六條 第二項ヲ次ノ通りトス
自己ノ希望ニヨル退職者ハ退職ノ時期ニ拘ラズ三日以内ニ
宿舍ヲ明渡スベシ又本條ニ規定ナキ他ノ理由ニヨル被解雇
勞務者ハ現行法令ニ基キ會社ノ住宅ヲ明渡スベキモノトス
- 第三十八條 備考削除
- 第三十九條 (イ)ノ義務日數ヲ二十二日 (ロ)及(ハ)ヲ二十四日トス
本文ノ第二項トシテ左ノ通り追加ス
前掲義務日數中ニハ其ノ理由ノ如何ニ不拘缺勤日ハ之ヲ含マ
ザルモノトス
- 第四十條 本文ハ法律通りヲ主張スベシ
備考三八「サガレン」ニ於ケル會社企業ニテ連續二ケ年以上稼

北樺太鑛業株式會社

- 働セル勞務者ニシテサガレン以外ニテ休暇利用ヲ希望スル
「――」以下同ジト修正ス
尙法律規定以外ニ一週間ノ追加休暇ヲ認ムル場合追加休暇ノ
金錢代償ハ會社ノ裁量トスルコト
- 第四十八條 削除
- 第五十條 現在ノ第三項ハ次ノ通りトシ第五十一條ノ後ニ新條トス
新條 未成年者ノ個人的或ハ團体的教育施行ニ對シ會社ハ未成
年者ヲ附屬セシメタル勞務者ニ未成年者一ヶ月賃銀率ノ十%
ヲ支給次ノ手續ヲ以テ支拂フ
毎月末支給ヲ受クベキ額ノ五十%ヲ支給シ残り五十%ハ半ケ
年終了後徒弟ガ試験ニ合格セル場合ニノミ六ヶ月分ヲ一時ニ
支給ス
- 第五十條 第二項ハ次ノ通りトス
「徒弟ガ教育期間ハ三ケ年以内トス、教育プログラム並ニ徒
弟ノ種類ハ現地ニ於テ組合ト會社トノ協定ヲ以テ定ム」
- 第五十一條 五項ヲ削除ス

北樺太鑛業株式會社

- 第五十三條 二項ヲ削除ス
- 第五十四條 サガレン執行委員會ヲ亞港市會ト改ム
- 第五十五條 削除
- 第五十六條 クラブ新築費トシテ——留ヲ提供ス
- 第五十八條 第五十六條ト關聯シ組合納金ヲ二・二五%マデ減額ス
- 第五十九條 第一項、サガレン執行委員會ヲ亞港市會ト改ム
- 第二項、客馬車ハ一週一回トシ前日中ニ申出セシムル條件ヲ附ス
- 第六十條 支那文契約書未引渡ヲ詰問スルコト
- 附錄第一中

選硬夫ノ中家屋中ノ字句削除

十一等級採炭夫ハ會社企業ニテ十等級採炭夫トシテ三ヶ年稼働セル者又ハ採炭夫トシテノ經驗五ヶ年以上ヲ有スル者ト限定スルコト

右ノ外職別説明ハ大体ノ記述ニ付記述中ニナキ事項ト雖モ常識上其ノ職務ニ含マル、モノト見做サル、コトハ遂

北樺太鑛業株式會社

- 行ノ義務アルコトヲ規定スルコト
- 附錄第二 配給標準ヲ可及的ニ減少スルコト特ニ牛肉、魚、バター、サローハ何トカシテ多少ニテモ標準ヲ引下グルコト別紙ノ通り一應提案スベシ
- 附錄第四 住宅ノ部 左ノ條文トスルヲ希望ス
- (一)住宅ハ勞務者及其家族各一人ニ付六平方メートル一家族中八才未満ノ小兒一名ハ獨立ノ標準ヲ利用セズ八才未満ノ小兒二名乃至三名ノ時ハ成年者一人分ノ標準ヲ利用ス家族持住宅ノ住宅標準ニハ各部屋ヲ直接連絡スル溫暖ナル廊下ノ面積ヲ含ムモノトス
- (二)合宿所ニ於テハ床ノ面積ハ居住者一人ニ付四平方メートル
- (四)〇、四五平方メートル、四平方メートル
- (六)一八、二一平方メートル一六平方メートル、二、二七平方メートル二平方メートル
- (八)合宿所ノ塗替ヲ一ヶ年一回トス

北樺太鑛業株式會社

六、次ノ通りトス

季節的並ニ臨時勞務者ハ宿舍ノ都合ニヨリテハ五月ヨリ十月ニ至ル期間テントニ居住セシムルコトアルベシ
テントノ標準並ニ其他ノ共產的援助ノ標準ハ現場ニ於テ組合ト會社トノ協定ヲ以テ定ム

以

上

E-1737

0303

ドロツプス

1 罐

1 罐

ウ ド ン

2 キロ

1 キロ

1 キロ

労働用及外出長靴

1 足宛

編上靴又ハ短靴

1 足

1 足

1 足

1 足

オーバーシューズ

1 "

1 "

1 "

1 "

更 紗

家 50 米
獨 20 米

綿 布

家 20 米
獨 10 米

羅 紗

6 米

洗濯石鹼

5 ケ

3 ケ

2 ケ

2 ケ

2 ケ

靴底革

1 足分

1 足分

1 足分

ゴム長靴

1 足

1 足

1 足

現行供給品中本案ヨリ
除外セルモノ

カーネーションミルク、コーヒー、ココア
トマトケチャップ、毛布、マカロニー、綿
セル地

ウドンハマカロニーノ代リトシテ加ヘタリ
配給値段ハ現行以上引上ゲ困難ナリ但シ牛
肉及バターノ値段ヲ引上ゲ他ヲ引下グルニ
一策ナリ

以 上

物資供給標準改訂案

品 名	労働者 一人	成 年 家 族	2才迄ノ 家 族	8才迄ノ 家 族	16才迄 ノ家族	備 考
粉 一等品	2 キロ	10 キロ		8 キロ	10 キロ	一ヶ月
粉 一等品	10 "	8 "	5 キロ	5 キロ	8 キロ	"
牛肉(冷凍冷蔵鹽 肉ノ別ナシ)	3 "	2 "		2 "	2 "	"
コーンビーフ	4 罐	3 罐			1 罐	"
魚(新鮮鹽漬ノ別ナシ)	8 キロ	8 キロ		2 キロ	2 キロ	"
卵	10 ケ			10 ケ		6.7.8.9.月ハ 供給セズ
クルパー	2 和	2 キロ	1 キロ	2 キロ	1 キロ	一ヶ月
白 米	4 "	3 "		2 "	1 "	"
馬 鈴 薯	15 "	10 "	2 "	3 "	10 "	"
野菜(人參赤蕪 其他)	8 "	5 "	5 "	5 "	5 "	"
玉 葱	1.5 "	1.5 "		1 "	1 "	"
砂 糖	2.5 "	1.5 "	1.5 "	1.5 "	1.5 "	"
紅 茶	100 瓦	100 瓦	25 瓦	25 瓦	50 瓦	"
鹽	500 "	500 "	100 "	200 "	500 "	"
バ タ ー	500 "	500 "	800 "	800 "	500 "	"
植物油(大豆油 落花生油)	1 和	1 キロ			1 キロ	"
サ ロ ー	1 "	1 "		1 キロ	1 和	"

E-1737

0304

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

北樺太鑛業株式會社

御願
拜啓薩哈噠亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港佐々木總領事殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜敷御取計
相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十月十二日



十月十二日 北樺太鑛業所 取締役會長 注



外務省御中

北樺太鑛業株式會社

電文
俱樂部問題ノ當方最後案「一切ノ費用トシテ四萬留提供建築其他ハ
現地協定」ニ對シ「會社ハ一九三二年一月一日迄ニ四萬留以內ニテ
三〇〇人收容ノ俱樂部ヲ新築ス組合案ハ現地協定」程度ニ譲步セザ
レバ協定困難ト小澤ヨリ通知アリタ實見返

以上

電 文

俱樂部問題ノ當方最後案『一切ノ費用トシテ四萬留提供建築其他ハ
現地協定』ニ對シ『會社ハ一九三二年一月一日迄ニ四萬留以內ニテ
三〇〇人收容ノ俱樂部ヲ新築ス組合案ハ現地協定』程度ニ讓步セザ
レバ協定困難ト小澤ヨリ通知アリタ貴見返

以 上

E-1737

0306

北樺太鑛業株式會社

俱樂部問題ニ付テ貴電見タ然シ小澤ヨリ左ノ通り電アリタ
「會社ガ如何ニ多額ノ支出ヲ爲スモ組合自身ハ建築ノ方法ヲ有セ
ザルガ故絶對ニ承認シ難シト云フ觀覽席ノ大サニ付テハ交渉ノ
餘地ヲ有ス」
本件ハ最後ニハ
(一)所要労働者ヲ組合ヨリ提供セシム
(二)右労働者ハ現有宿舍ニ割込ミ宿舍標準ヲ云爲セザルコト
(三)右労働者ノ待遇ヲ定メ配給物資等ハ制限ス
(四)能率ニ付保障セシムルコト
(五)完成期日ハ相當延期セシム
(六)參萬留位ヲ限度トス
(七)完成後ノ修繕等一切ノ費用ヲ負擔セザルコト
(八)其他附帶條件現地協定
右條件ヲ嚴重取極メ建築ヲ當方ニ爲スコトニ提議シテハ如何
電
文
以
上

電信課長

電送第 13117 號

6年10月29日 午前 2 時 40 分發

電信課長

外務省

主 管	歐米局長
件	北樺太鑛業株式會社依頼電報一團 （依頼電報左ノ内題）
宛	在亞港 佐々木總領事
第 號	
發	故中 原 大 臣
名 込 綴	帝國對露利權問題 北樺太鑛業

（引紙依頼電報其係打重ノ下）

電信課長

電信課長

大關

（原議用紙甲）ナ

3.2

E-1737

0307

北樺太鑛業株式會社

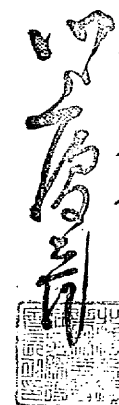
御 願

拜啓薩哈噠亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港佐々木總領事殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜敷御取計
相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十月二十三日

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



外 務 省 御 中

北樺太鑛業株式會社

電 文

俱樂部問題ニ付テ實電見タ然シ小澤ヨリ左ノ通り電アリタ
「會社ガ如何ニ多額ノ支出ヲ爲スモ組合自身ハ建築ノ方法ヲ有セ
ザルガ故絕對ニ承認シ難シト云フ觀覽席ノ大サニ付テハ交渉ノ
餘地ヲ有ス」

本件ハ最後ニハ

- (一) 所要労働者ヲ組合ヨリ提供セシム
- (二) 右労働者ハ現有宿舍ニ割込ミ宿舍標準ヲ云爲セザルコト
- (三) 右労働者ノ待遇ヲ定メ配給物資等ハ制限ス
- (四) 能率ニ付保障セシムルコト
- (五) 完成期日ハ相當延期セシム
- (六) 参萬留位ヲ限度トス
- (七) 完成後ノ修繕等一切ノ費用ヲ負擔セザルコト
- (八) 其他附帶條件現地協定

右條件ヲ嚴重取極メ建築ヲ當方ニ爲スコトニ提議シテハ如何尙貴

以 上

北樺太鑛業株式會社

御願
拜啓在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ毎度御手數恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理股宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十一月四日

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



外務省御中

北樺太鑛業株式會社

電文

(一二三號)

俱樂部建築ハ賃銀、物資、組合維持費ヲ當方現在ノ主張通りトシ
下記條件ヲ可然議定書ニ記載セシメテ會社引受ノコトニ主張セラ
レタシ
一 所要労働者ヲ組合ニテ島内ヨリ提供セシメ困難ノトキハ邦人入
籍セシム右労働者ハ宿舍標準ヲ云爲セズ現有宿舍ニ割込マシ待
遇ヲ定メ物資配給ヲ制限ス能率保障ノコト
二 完成期日ハ來年十一月末(尙出來ルダケ延期ノコト)
三 費用參萬留ヲ限度トス
四 完成後ハ組合ニ委管シ附保セシメ修繕等一切ノ費用ハ組合負擔
トス
五 設計ハ組合案ヲ參考トスルモ會社案ヲ源トス
六 二重板張又ハ鐵網セメント造鐵板葺
七 原木ハカーメンナヤノ搬出ニ便宜ナル區域エテ伐採方組合ニテ
傳票取付ノコト

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

北樺太鑛業株式會社

ハ組合側勞働奉仕ヲ出來ルダケナサシムルコト
九其他ノ細目ハ現地協定

以

上

北樺太鑛業株式會社

(一二號)

電 文

俱樂部建築ハ賃銀、物資、組合維持費ヲ當方現在ノ主張通りトシ
下記條件ヲ可然議定書ニ記載セシメテ會社引受ノコトニ主張セラ
レタシ
一 所要勞働者ヲ組合ニテ島内ヨリ提供セシメ困難ノトキハ邦人入
露セシム右勞働者ハ宿舍標準ヲ云爲セズ現有宿舍ニ割込マシ待
遇ヲ定メ物資配給ヲ制限ス能率保障ノコト
二 完成期日ハ來年十一月末(尙出來ルダケ延期ノコト)
三 費用參萬留ヲ限度トス
四 完成後ハ組合ニ委管シ附保セシメ修繕等一切ノ費用ハ組合負擔
トス
五 設計ハ組合案ヲ參考トスルモ會社案ヲ源トス
六 二重板張又ハ鐵網セメント塗鐵板葺
七 原木ハカ！メンナヤノ搬出ニ便宜ナル區域ニテ伐採方組合ニテ
傳票取付ノコト

北樺太鑛業株式會社

三五一號貴案ニ當方案ヲ追加シ小澤ニ通知セルニ「右ヲ最後案ト
シテ交渉努力スルモ主張通ラネバ決裂ヲ睹シテヨキヤ」ト電照ア
リタ交渉余程難澁セルモノ、如シ何等カ多少展開サセル貴案ナキ
ヤ

以上

電文

電信料依頼書

第 15011 號

昭和 6 年 11 月 9 日 午後 7 時 10 分發

E 4. 2. 2. 2-2

(別紙依頼書及共便打電等)

宛	佐々木總領事	發	幣急大臣
件	(北樺太鑛業株式會社依頼書及 團體契約締結書等件)	名込綴	帝國對露利權問題 北樺太鑛業
主	主 任 關 東 軍 務 課 長	起	昭和 6 年 11 月 9 日
管	主 任 關 東 軍 務 課 長	原	議用紙甲ナ

電信課長 關 東 軍 務 課 長

3.2

E-1737

03 12

北樺太鑛業株式會社

拜啓薩哈噠亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港佐々木總領事殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜敷御取計
相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十一月九日

北樺太鑛業株式會社
代表會長 山本 實
（印）

外務省 御中

北樺太鑛業株式會社

電文
三五一號貴案ニ當方案ヲ追加シ小澤ニ通知セルユ「右ヲ最後案ト
シテ交渉努力スルモ主張通ラネバ決裂ヲ睹シテヨキヤ」ト電照ア
リタ交渉余程難澁セルモノ、如シ何等カ多少展開サセル貴案ナキ
ヤ

以上

北樺太鑛業株式會社

鑛業所ハ決裂止ムヲ得ヌト云フニ付極力前電通り申入レ先方ノ出
方次第ニテ更ニ考慮ノコト、致度シ

電 文

以 上

分類 E9.2.22-2

第 15548 號

昭和 6 年 11 月 14 日 午後 2 時 15 分發

電信依頼書

電 信 案

外 務 省

主 管 北樺太鑛業株式會社 總務課長	件 宛 在哈奇 小樺總領事代理	主 任 北樺太鑛業株式會社 總務課長	主 任 北樺太鑛業株式會社 總務課長
名 込 綴 帝國對露利權問題 北樺太鑛業	發 幣 幣原大良		

電信課長 11
昭和 6 年 11 月 14 日
(原議用紙甲)

E-1737

03:14

北樺太鑛業株式會社

鑛業所ハ決裂止ムヲ得ヌト云フニ付極力前電通り申入レ先方ノ出
方次第ニテ更ニ考慮ノコト、致度シ

電 文

以 上

北樺太鑛業株式會社

御 願

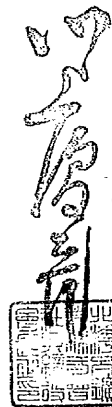
拜啓在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ
對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ毎度御手數恐縮至極ニ奉存候得
共在哈府小柳總領事代理履宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方宜敷御
取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十一月十四日

打 入

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



外 務 省 御 中

北樺太鑛業株式會社

俱樂部先方強硬ニ付局面展開難澁ノ場合ハ一時歸國ヲ小澤ヘ電ス
ルヲ可ト思フ貴見返

以上

電 文

EC22.2-2

電送第 16261 號

昭和6年11月19日 磨 5 時 15 分

電信料係拂

電 信 案

第 號

(別紙暗文/儘電報ノト)

宛 佐々木總領事

宛

件

主 管 歐米局長
主 任 第一課長
北樺太鑛業依頼
團契締結ノ件

級 込 名 帝國對露利權問題
北樺太鑛業

發 幣原外務大臣

電信課長

電 信 案

20

(原議用紙甲)ナ

3.2

E-1737

03:16

北樺太鑛業株式會社

一三號ニ關シ
局面展開セス又長期ニ亘リ休會スルナレハ
ツケ歸國スルモ差支ナシ先方意向確メヨ

以上

電 文

分類 42222

送第 16259 號

6年11月9日 時15分

電信料依頼ノ辨

電 信 案	第 一 號	宛 在ハバロフスク 柳總領事代理	主 管 歐米局長 北樺太鑛業依糧 團契締結ノ件	主 任 第一課長 (電草昭和6年11月19日)
			名 込 綴 帝國對露利權問題 北樺太鑛業	發 部 外務大臣
外 務 省	別紙暗文ノ儘電報ノモ			

電信課長

電信案

18

(原議用紙甲)ナ

E-1737

03 17

北樺太鑛業株式會社

電 文

(一) 賃銀

團契未決條項中主ナルモノ次ノ如ク處理シテハ如何

第一案、労働者最低ヲ現行通リトシ四級ヨリ七級マデノ係數ヲ
夫々〇、一、八級ヲ〇、〇五引上ゲ徒弟ハ最低ヲ九十
五哥トス

第二案、労働者最低ヲ一留二十五哥、徒弟ハ九十五哥トス

(二) クラフハ三百五十人收容ヲ保證當方附帶條件ハ出來ルダケ認メ
シムルコト但シ労働率仕、能率保證、物資制限配給ノ三項ハ組
合ノ同意困難ナル時ハ議定書ニ組合ハ凡ユル好意的援助ヲナス
旨ヲ記載セシムルコト

(三) 組合納金現行通り

(四) 右代償トシテハ物資減量ヲ極力主張スベク其他ノ未決事項ニ付
テハ適宜處理ノコト、シタシ

實見通

(E 4.2.2.2-2)

電送第 18927 號

第 6 年 12 月 19 日 午前 3 時 4 分

電信依頼人

電信課長	主任 國米局長	主 任 國米局長	昭和 7 年 12 月 19 日
件	北樺太、統籌令ハ依頼有知	北樺太、統籌令ハ依頼有知	北樺太、統籌令ハ依頼有知
宛	在函	佐々木總領事	大 臣
暗	第 1 號	大 臣	大 臣
別	以依頼有知	大 臣	大 臣
電	信	案	外 務 省

(原議用紙甲)ナ

E-1737

03:18

北樺太鑛業株式會社

御願
拜啓薩哈噠亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港佐々木總領事殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜敷御取計
相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十一月十九日

北樺太鑛業株式會社

取締役會長

打石 乙一

外務省御中

北樺太鑛業株式會社

電文
俱樂部先方強硬ニ付局面展開難澁ノ場合ハ一時歸國ヲ小澤ヘ電ス
ルヲ可ト思フ貴見返

以上

北樺太鑛業株式會社

御 願

拜啓在哈府弊社員小澤仁之甫宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲
ニ對シ機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存
候得共在哈府小柳總領事代理殿宛公文御發電ノ上右小澤へ傳達方
宜敷御取計相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十一月二十日

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



外 務 省 御 中

北樺太鑛業株式會社

電 文

一三號ニ關シ
局面展開セス又長期ニ亘リ休會スルナレハ缺裂ヲサクル適當整
ツケ歸國スルモ差支ナシ先方意向確メヨ

以 上

北樺太鑛業株式會社

第一七〇號

昭和六年十一月廿四日

外務省歐米局長
松島 肇 殿

拜啓陳者弊社團體契約改訂交渉狀況ニ關シテハ客月七日附第一六〇號弊信ヲ以テ御報告申上置候處其後十數回ノ折衝ヲ重ネ候モ協定セル條項無之目下俱樂部建築問題ニテ交渉行進ミト相成居ル狀況ニ有之候尙本月二十日現在ニ於ケル未決條項一覽表及俱樂部建築問題ニ關スル當方ノ讓步案別添ノ通りニ有之候間委曲右ニテ御了承相成度先ハ御報迄如斯御座候 謹言

北樺太鑛業株式會社

取締役會長

北樺太鑛業株式會社
取締役會長
北樺太鑛業株式會社
取締役會長
北樺太鑛業株式會社
取締役會長

北樺太鑛業株式會社

一九三一年十一月二十日現在團體交渉未決條項一覽表

條 項	會 社 側 提 案	組 合 側 提 案	摘 要
第三條	效力發生日ハ契約調印ノ日ヨリ一々年	效力ハ一九三一・八・一五ヨリ發生シ迄有效	互方原案固持
第十一條	三項六ヶ月以内ニ項及自己依願解雇者ノ旅費日當返還規定	荷物運賃労働者三〇軒家族八〇軒ハ作樂場到着後二日間労働免除	荷物運賃ハ會社承認議定書ニ記載スベシト提議 労働免除ハ「作樂場到着後四時過ノ場合翌日労働免除」ト議定書記載ト會社組合ハ本文明記ヲ主張
第十四條	末項「二週間分」ヲ「一週間分」トス	ハ項同行家族ニ對ス旅費及運賃支拂ヲ規定スベシ	

北樺太鑛業株式會社
取締役會長
北樺太鑛業株式會社
取締役會長
北樺太鑛業株式會社
取締役會長

北樺太鑛業株式會社

第三十九條 義務日數中ニハ其 理由ノ如何ニ拘 礙勤日ハ之ヲ不 義務日數(ハ)二 (四)及(ハ)二十 四日	第五十條 三項削除 修正 加ヘテ五十一條 備考トス 第二項教育年間 三ヶ年	第五十一條 五項削除 未成年者配屬勞 働者ノ報酬一ヶ 月未	第五十三條 二項削除 成年者賃銀ノ〇 〇
不拘三日以内	一九三一・一一・一 迄ニ鑛山徒弟學 校ヲ開設細目ハ 協定	二項一四・一五 〇〇號宿舍及ア ガロツドナヤ赤 色 協定	二項一四・一五 〇〇號宿舍及ア ガロツドナヤ赤 色 協定
本文未決 備考ハ一現通行 (議定書第四號)	組合原案固持 會社讓歩シテ現 通行ヲ主張ス	支那人俱樂部修 理ニ關スル第二 項ハ會社讓歩シ テ決定 (議定書第一號)	第一項現通行 アガロツドナヤ 赤

北樺太鑛業株式會社

第三十六條 住宅明渡し依頼 解雇者ハ時期ニ	第二十條 (四)削除 其他現通行	第十九條 退職手當支給ノ 項削除	新條項
賃銀値上 勞働者一等級一 ・五二 一・〇六 從業員 四五〇〇	組合些カ讓歩シ テ左ノ通り主張 ス(議定書第十八 條) 勞働者一級一・ 〇四〇 從業員一・〇五 〇 從業員ハ之ガ對 案トシテ左ノ通 リ主張ス 勞働者一級一・ 〇二〇 從業員一・〇九 五 從業員ハ之ガ對 案トシテ左ノ通 リ主張ス 勞働者一級一・ 〇二〇 從業員一・〇九 五 從業員ハ之ガ對 案トシテ左ノ通 リ主張ス	等級移動手續規 定ノ提案	
會社ハ議定書記 載ヲ承認ス 組合ハ本文ニ明 記ヲ主張ス	組合些カ讓歩シ テ左ノ通り主張 ス(議定書第十八 條) 勞働者一級一・ 〇四〇 從業員一・〇五 〇 從業員ハ之ガ對 案トシテ左ノ通 リ主張ス 勞働者一級一・ 〇二〇 從業員一・〇九 五 從業員ハ之ガ對 案トシテ左ノ通 リ主張ス		

北樺太鑛業株式會社

附錄第一	第五十九條	第五十八條
選硬夫一「家屋内」ノ字句削除 十一等級探炭夫ハ會社企業ニテ十級探炭夫トシテ三年又ハ通算五年ノス 定「子所有者」ト規 職別説明ハ大体ノ 特徵作業ヲ記述セ ルモノナルニ付記	「サガレン」執行委員會「一週二回」ヲ「一週一回」トス	組合納金「二・二五」ヲ「二・二〇」ト減額
探炭夫十、十一、十二等級 發破夫十二等級 支柱夫九、十、十二等級 鍛冶工九、十等級 (追加提案) トラクタ―運轉工七、八等級	括弧内「七名以内」ト變更スベシ	
會社主張ヲ通り發破夫十二等級ヲ承認 トラクタ―六、七級 其他「現行通り」ヲ主張ス ニ止ル	「組合議歩シテ」一六人以内」ヲ主張ス(議定書第八號)	トキハ會社ニ於テ建築スベシト提議 議定書第五號以來審議セズ目下ノ處交渉ノ中心ヲ離レタル狀態

北樺太鑛業株式會社

第五十六條	第五十五條	第五十四條
俱樂部新築費トシテ「一〇〇」留提供ス	削除	サガレン執行委員會「亞港市會」ト變更ス
本契約有効期間中ニ五五〇人以上收容ノ充分設備セラレタ俱樂部ヲ新築ス 設計案及予算ハ一、九三一・〇・一迄ニ現地協定	「會社」ノ勞資力ニヨリ修理ス」ト追加	新備考「公共的建築物」火防器具ヲ備ヘ付ク 括弧内「字句」ヲ「四名以内」ト變更
組合收容力ニ於テ些カ議歩シ四〇〇人收容ノ俱樂部ヲ會社ガ一九三二・九・一迄ニ新築スベシ(議定書第十八號)ト主張 會社議歩シテ本細目條件ヲ承認 議定書ニ記載スル	組合議歩シテ十一人以内ヲ主張ス(議定書第八號)	色室組合案採用ト決定(議定書第四號) 四一號外赤色室設備ノ問題ハ未決ノ儘保留

北樺太鑛業株式會社

俱樂部問題ニ對スル會社ノ議步案

下記條件ヲ組合ガ承認シ可然議定書ニ記載スルトキハ會社自ラ俱樂部ヲ建築スベシ

一 所要労働者ヲ組合ニテ島内ヨリ提供セシメ困難ノトキハ邦人入露セシム右労働者ハ宿舍標準ヲ云爲セズ現有宿舍ニ割込マシ待遇ヲ定メ物資配給ヲ制限ス能率保障ノコト

二 完成期日ハ來年十一月末（尙出來ルダケ延期ノコト）

三 費用ハ參萬留ヲ限度トス

四 完成後ハ組合ニ委管シ附保セシメ修繕等一切ノ費用ハ組合負擔トス

五 設計ハ組合案ヲ參考トスルモ會社案ヲ源トス

六 二重板張又ハ鐵網セメント塗鐵板葺

七 原木ハカーメンナヤノ搬出ニ便宜ナル區域ニテ伐採方組合ニテ傳票取付ノコト

八 組合側労働奉仕ヲ出來ルダケナサシムルコト

北樺太鑛業株式會社

附錄第二 牛肉、魚、バター、サロ、馬鈴薯ノ標準引 下 載ナキ作業ト雖モ常識織上當然包含サルベキ作業ハ遂行ヲ要スト記載	附錄第四 住宅標準ハ端數切捨米標準ノミ保存季節的臨時的労働者ハ都合ヨリ五月、十月、テント居住、細目標準ハ現地協定
大体現行通り 未ダ會議ノ中心問題トナリオラズ	未ダ會議ノ中心問題トナリオラズ

北樺太鑛業株式會社

其
他
ノ
細
目
ハ
現
地
協
定

北樺太鑛業株式會社

第一七四號

外務省歐米局長
松島 肇 殿

昭和六年十一月廿七日

拜啓陳者本年度國體契約交渉が俱樂部問題ニテ行惱ミト相成居候
趣ハ本月廿四日附第一七〇號ヲ以テ御報申上置候處今般在哈府當
方代表ヨリ通電有之右ニ依レバ本問題ニ關シテハ先方ハモスコ
本部ト篤ト打合ス必要アル由ナリシヲ以テ本年中ハ會議ヲ休會シ
明年再會ノコトニ申合セタル趣ニ付當方ヨリモ代表ニ對シ一時歸
國方發電致置候右不取敢御通知迄得貴意候 謹言

北樺太鑛業株式會社

代表會長

松島 肇



歐米局

普通第二一九號

昭和六年十一月二十日

在ハバロフスク

總領事代理 小柳 雪

生

外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

本年度團契改訂交渉ニ關シ報告ノ件

北樺太鑛業株式會社代表小澤仁之甫氏ハ本年度労働團體契約改訂交渉ノ爲メ本年九月二十三日當地ニ出張シ來リ爾來中央ヨリ派遣セラレタル全露石炭労働者組合代表中央執行委員會議員「カルボフ」氏トノ間ニ二十數回ニ亘リ接衝ヲ重ネ來レルカ基本問題タル賃銀及供

在ハバロフスク日本總領事館

昭和六年三月七日 接受

業部問題ニ付相互ノ主張ニ相當ノ懸隔アリ遂ニ交渉行詰リノ狀態ニ陥リ結局相方之カ打開策トシテ組合側ハ中央ト小澤代表ハ本社ト夫々兩者妥協點ニ付打合セラ了シ來年一月ヨリ更ニ交渉ヲ續行スルコトトシ本年一俣右交渉ヲ中止スルコトニ決定セル趣ニテ「カルボフ」ハ莫斯科ヘ小澤代表ハ本二十八日一先ツ歸朝ノ途ニ就ケリ
主要問題ニ關スル相互ノ主張ハ(一)賃銀ニ就テハ當初組合ハ労働者最低賃銀一留十七哥ヲ一留五十二哥ニ徒弟ノ九十哥ヲ一留六哥ニ従業員ノ三十五留ヲ四十五留ニ増額万主張セルニ對シ小澤代表ハ企業現在ノ狀態ヲ鑑ミ説示ノ上現行通りヲ頑強主張シタル結果組合側ハ労働者最低賃銀ヲ一留四十哥、徒弟一留六哥、従業員現行通り(三十五留)マデ讓歩シ來リタルモ會社側ニ於テハ依然現行通りヲ絶對ニ

在ハバロフスク日本總領事館

主張其ノ後何等ノ進展ヲ見ス(二)倶楽部問題ニ付テハ當初組合ハ會社
側ノ手ニ依リ五百五十人ヲ收容シ得ル倶楽部ノ建築ヲ主張セルニ對
シ會社側ハ倶楽部建築費トシテ二萬留ヲ支出スルモ右倶楽部ノ建築
ハ組合側ニ於テ行フヘキコトヲ提議セルモ繼ラス其ノ後屢次接衝ノ
結果組合ハ五百五十人ヲ四百人迄ニ讓歩又會社側ニ於テモ建築費ヲ
三萬留ニ増額且倶楽部ノ建築モ會社側ニ於テ引受クルコトニ讓歩シ
タルモ右倶楽部建築ニ關聯スル木材伐採及日本人勞働者入露問題等
附帶條件ニ兩者意見ノ相違アリ末タ妥協點ニ達セサル趣ナリ其ノ他
三、四ノ未決問題アルモ差シテ重大ナル意見ノ相違ナク前記二主要問
題ノ解決ト共ニ自然協定セラルヘシト云フ
右御參考迄報告申進ス

在ハバロフスク日本總領事館

本信寫送付先

在蘇聯邦大使

在亞港總領事

在ハバロフスク日本總領事館

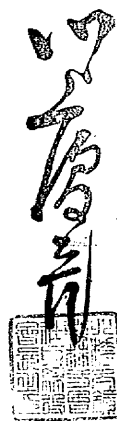
北樺太鑛業株式會社

拜啓薩哈連亞港弊鑛業所宛別紙ノ通り架電仕度候處勞農官憲ニ對シ
機密ヲ可要事項有之候ニ就テハ每度御手數恐縮至極ニ奉存候得共在
亞港佐々木總領事殿宛公文御發電ノ上弊鑛業所ニ傳達方宜敷御取計
相蒙度此段御願迄如斯御座候 謹言

昭和六年十二月十八日

北樺太鑛業株式會社

取締役會長



外務省御中

北樺太鑛業株式會社

電文

團契未決條項中主ナルモノ次ノ如ク處理シテハ如何
(一)賃銀

第一案、勞働者最低ヲ現行通リトシ四級ヨリ七級マデノ係數ヲ
夫々〇、一、八級ヲ〇、〇五引上ゲ徒弟ハ最低ヲ九十
五哥トス

第二案、勞働者最低ヲ一留二十五哥、徒弟ハ九十五哥トス
(二)クラブハ三百五十人收容ヲ保證當方附帶條件ハ出來ルダケ認メ
シムルコト但シ勞働者仕、能率保證、物資制限配給ノ三項ハ組
合ノ同意困難ナル時ハ議定書ニ適合ハ凡ユル好意的援助ヲナス
旨ヲ記載セシムルコト

(三)組合納金現行通り

(四)右代償トシテハ物資減量ヲ極力主張スベク其他ノ未決事項ニ付
テハ適宜處理ノコト、シタシ
貴見返